

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

事務事業コード 732-03-05

| | | | | | | | |
|--------|----------------|--|---------------------|-------|----|-------------|--|
| 事務事業名 | | スマートフォン教室開催事業 | | 事務の種類 | | 自治事務(任意のもの) | |
| 担当部署名 | | デジタル推進課 | | 連絡先 | | 4740 | |
| 総合基本計画 | 施策目標 | 7 | 市民とともに築く 自立したまち | 予算科目 | 会計 | (費用負担なし) | |
| | 施策 | 3 | 行財政運営 | | 款 | | |
| | 施策の方向 | 2 | 情報通信技術の活用とセキュリティの強化 | | 項 | | |
| 事業の概要 | 対象 (誰を・何を) | 高齢者 | | | | | |
| | 目的 (どうしたいか) | 先端技術の活用による市民の生活の質の向上を目指し、地域課題の解決や行政のデジタル化の推進に取り組む一環として、高齢者をはじめとした市民のデジタル活用を支援することにより、「デジタルデバインド(情報格差)」の解消を図り、誰もがデジタル化の恩恵を享受できる社会を実現すること。 | | | | | |
| | 手段 (事業内容) | スマートフォン教室の実施(令和3年度は市役所別館研修室で実施) | | | | | |

| | | | | | | |
|--------|-------|---------|-------|-------|-----------------|--|
| 予算・決算額 | | (単位:千円) | | | ≪主な内訳(令和3年度決算)≫ | |
| | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 【事業費】 | |
| 当初予算額 | 事業費 | — | 0 | 0 | 0 | |
| 決算額 | 事業費 | — | 0 | — | 【特定財源】 | |
| | 特定財源等 | — | 0 | — | 0 | |

| | | | | |
|--------|------------------|------------------------------|-------|-------|
| 活動指標 | | (事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか) | | |
| 指標名 | スマートフォン教室実施回数 | 単位 | 回 | |
| 指標の説明 | スマートフォン教室を実施した回数 | | | |
| | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標(見込) | — | 4 | 52 | |
| 実績 | — | 3 | — | |

| | | | | |
|--------|---|--------------------------------|-------|-------|
| 成果指標 | | (事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか) | | |
| 指標名 | — | 単位 | — | |
| 指標の説明 | — | | | |
| | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 目標(見込) | — | — | — | |
| 実績 | — | — | — | |

≪事業の参考数値等≫

○ 令和4年度の前定
 ・高年生きがいサロンでの実施
 12回(月1回実施)
 ・総務省事業スマートフォン教室の承諾
 40回(令和5年1月、4施設、10日間実施)

| | | | | |
|------|-------------------------------|--------------------|--|---|
| 個別評価 | | | | |
| 妥当性 | 本事業を市が行うのは妥当か。 | 概ね妥当である。 | | B |
| | 対象範囲や水準、手段は妥当か。 | 妥当である。 | | |
| | 事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。 | 影響は大きくない。 | | |
| 有効性 | 目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。 | 期待どおりの成果が上がっている。 | | A |
| | 類似事業との統廃合はできるか。 | 統廃合はできない。/類似事業はない。 | | |
| | 事業の上位目標である施策に貢献しているか。 | 貢献している。 | | |
| 効率性 | 事業費削減の余地はあるか。 | 削減の余地はない。 | | B |
| | 人件費削減の余地はあるか。 | 削減を検討する余地がある。 | | |
| | 受益者負担の割合は適正か。 | 適正な受益者負担である。 | | |

| | |
|---|---------------|
| 総合評価 | 拡充・重点化 |
| (担当部局による総合評価の理由や課題) | |
| 急速なデジタル化の進展に伴い、高齢者のデジタルデバインド対策が急務となっている。そのような中で、各携帯電話ショップ等においてもスマートフォン教室が開催されているが、行政のデジタル化を推進する上でも、市においても民間事業者と連携したスマートフォン教室を実施することは重要であると考えている。 また、実施した教室においては満席となるが多く、好評を得ている。 | |

| |
|--|
| 今後の改善内容 |
| (令和4年度以後の事業実施への改善内容) |
| 教室開催時にアンケートを実施しており、その内容を講師へフィードバックすることで、次回以降の実施内容の改善に努めている。 民間事業者との連携事業として実施しており、市として費用は生じていないものの、事業者と協議・調整を行いながら進めている状況である。 今後、これまでの事業実績を踏まえながら、事務事業のさらなる効率化を図っていく。 |